安全データシート

改訂日:2024年11月28日

1. 製品及び会社情報

製品名	サリチル酸メチル
推奨用途	試験研究用
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号	(06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京)　(0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋)　(082)537-0290(広島)
整理番号	CA0224

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	急性毒性(経口):区分4 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:区分1 皮膚感作性:区分1B 生殖毒性:区分1B 特定標的臓器毒性:区分1(中枢神経系、消化管) (単回ばく露)　区分3(麻酔作用) 特定標的臓器毒性:区分1(中枢神経系) (反復ばく露)
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性):区分2 水生環境有害性 長期(慢性):区分2

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語	危険
危険有害性情報	飲み込むと有害 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 重篤な眼の損傷 眠気又はめまいのおそれ 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ 中枢神経系、消化管の障害 長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害 水生生物に毒性 長期継続的影響によって水生生物に毒性
注意書き	【安全対策】 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 取扱い後は手などをよく洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 環境への放出を避けること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 【応急措置】 飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿で休息させること。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の連絡をすること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診断/手当を受けること。 直ちに医師に連絡すること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。 気分が悪いときは、医師の診断/手当を受けること。 口をすすぐこと。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。 漏出物を回収すること。 【保管】 容器を密閉し、涼しく換気の良いところで保管すること。 施錠して保管すること。 【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名	サリチル酸メチル
別名	メチルサリシレート、冬緑油、o-ヒドロ安息香酸メチル
化学式	$HOC_6H_4COOCH_3$
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN:119-36-8
成分及び含有量	サリチル酸メチル98%以上
官報公示整理番号(化審法、安衛法)	(3)-1585 / 公表
その他	HSコード:2918.23

4. 応急措置

吸入した場合	直ちに新鮮な空気の場所へ移動すること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	製品に触れた部分を水で洗い流した後、石鹸を用いて十分に洗浄すること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合	水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口の中をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 皮膚:吸収される可能性あり、発赤 眼:発赤、痛み 経口摂取:吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、過換気、耳鳴り、痙攣

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、水噴霧、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	燃焼性
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	局所排気装置を設置する。
安全取扱い注意事項	容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
接触回避	該当情報なし。
保管	
技術的対策	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。
適切な保管条件	法令に従った保管をすること。 容器を密閉すること。 直射日光を避け、換気の良い冷しい所で保管すること。 施錠して保管すること。
混触危険物質	酸化剤、強塩基
容器包装材料	ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度等	
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
濃度基準値	8時間: 未設定 短時間: 未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	

呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
目の保護具	保護眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な顔面用の保護具を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	油状液体
色	無色から黄～赤色
臭い	特徴的な臭気がある。
融点/凝固点	−8.6℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	222℃
可燃性	可燃性液体
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	96℃（C.C）
自然発火温度	451℃
分解温度	該当情報なし。
pH	該当情報なし。
動粘性率	該当情報なし。
溶解度	0.07g/100ml（20℃）
n−オクタノール/水分配係数	log Kow = 2.55
蒸気圧	6Pa（20℃）
密度及び/又は相対密度	1.18g/cm^3（20℃）
相対ガス密度	5.24（水＝1）
粒子特性	該当情報なし。

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取扱いにおいては安定である。
危険有害反応可能性	強力な酸化剤、強塩基と反応する。
避けるべき条件	熱、高温、日光、裸火・スパーク・静電気・その他の着火源との接触
混触危険物質	酸化剤、強塩基
危険有害な分解生成物	該当情報なし。

11. 有害性情報

急性毒性

経口：

【分類根拠】
（1）～（5）より、区分4とした。
【根拠データ】
（1）ラットのLD50：887 mg/kg（CLH Report (2017)、EPA Pesticides RED (2005)）
（2）ラットのLD50：2,820 mg/kg (雄：3,050 mg/kg、雌：2,640 mg/kg) (CLH Report (2017))
（3）ラットのLD50：1,250 mg/kg（CLH Report (2017)、EPA Pesticides RED (2005)）
（4）ラット（雄）のLD50：1,220 mg/kg（CLH Report (2017)）
（5）ラット（雌）のLD50：1,060 mg/kg（CLH Report (2017)）

経皮：

【分類根拠】
（1）、（2）より、区分に該当しない。
【根拠データ】
（1）ラットのLD50：> 2,500 mg/kg（REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)）
（2）ウサギのLD50：> 5,000 mg/kg（EPA Pesticides RED (2005)、REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)）

吸入：蒸気

【分類根拠】
データ不足のため分類できない。なお、（1）、（2）は、ばく露時間が不明であり分類に利用できない。
【参考データ】
（1）ラットのLC50：> 400 mg/m3（> 64.4 ppm）（REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)）
（2）ラットのLC50：> 100 mg/m3（> 16.1 ppm）（REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)）

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

【分類根拠】
（1）より、区分に該当しない。
【根拠データ】
（1）ウサギ（n=4）を用いた皮膚刺激性試験（OECD TG 404、GLP、半閉塞、4時間適用、14日観察）において、1%溶液、5%溶液、10%溶液、25%溶液、100%溶液を適用したところ、10%以下の濃度で反応はみられなかった。25%溶液を適用した場合の紅斑の平均スコアは0.2、浮腫の平均スコアは0であり、100%溶液を適用した場合の紅斑の平均スコアは1.3、浮腫の平均スコアは0.6であった。すべての反応は14日以内に完全に回復したとの報告がある（ECHA RAC Background Document (2019)、REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)）。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

【分類根拠】
（1）より、区分1とした。
【根拠データ】
（1）In vitro 眼刺激性試験（OECD TG 491、GLP）において、5%濃度の細胞生存率は25.5%、26.8%、31.0%であり、0.05%濃度の細胞生存率は11.6%、3.9%、19.9%であったとの報告がある（REACH登録情報情報 (Accessed Oct. 2020)）。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器：
【分類根拠】
データ不足のため分類できない。

皮膚：
【分類根拠】
（1）～（5）より、区分1Bとした。
【根拠データ】
（1）湿疹患者585名に対するパッチテスト（本物質2%剤）において、1978～1979年の調査で陽性率は1%、1979～1980年の調査で陽性率は2%であったとの報告がある（ECHA RAC Opinion (2019)、CLH Report (2018)）。
（2）1,825名に対するパッチテスト（多施設調査、本物質2%剤）において、陽性率は0.4%（7/1,825名）であったとの報告がある（ECHA RAC Opinion (2019)、CLH Report (2018)）。
（3）本物質は（1）（2）を含む複数の診断研究から、非選別の患者では1%未満、選別した患者では2%以下の頻度で皮膚感作性を生じる物質であると結論した（ECHA RAC Opinion (2019)、CLH Report (2018)）。
（4）マウス（n=4/群）を用いた局所リンパ節試験（LLNA）（OECD TG 429相当、溶媒：DMF）において、刺激指数（SI値）は1.5（12.5%）、1.7（25%）、5.9（50%）、7.1（100%）、EC3値は33%と算出されたとの報告がある（ECHA RAC Opinion (2019)、CLH Report (2018)、REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)）。
（5）マウス（n=4/群）を用いた局所リンパ節試験（LLNA）（OECD TG 429相当、溶媒：MEK）において、刺激指数（SI値）は2.0（12.5%）、2.4（25%）、7.6（50%）、9.4（100%）、EC3値は28%と算出されたとの報告がある（ECHA RAC Opinion (2019)、CLH Report (2018)、REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)）。

生殖細胞変異原性

【分類根拠】
（1）、（2）より、区分に該当しない。
【根拠データ】
（1）細菌を用いた復帰突然変異試験(OECD TG 471相当)において、陰性の報告がある（REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)、RIFM Expert Panel Report (2007)、Patty (6th, 2012)）。
（2）ほ乳類培養細胞を用いた染色体異常試験(OECD TG 473相当)において、陰性の報告がある（REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)、RIFM Expert Panel Report (2007)、Patty (6th, 2012)）。

発がん性

【分類根拠】
データ不足のため分類できない。
【根拠データ】
（1）ラットの混餌投与による2年間慢性毒性試験結果からは発がん性の証拠はみられなかった（REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)、RIFM Expert Panel Report (2007)）。しかし、これは古い慢性毒性試験であって、例数的にも少なく、発がん性試験の規準を満たさない。標準的な発がん性試験結果は、18種のサリチル酸（塩・エステル）のいずれについてもない（RIFM Expert Panel Report (2007)）。
（2）肺腫瘍発生に敏感なA系マウスを用いたスクリーニング試験において、本物質は試験条件下（最大500 mg/kgを3回/週、8週間腹腔内投与）で肺腫瘍の発生増加を生じなかった（RIFM Expert Panel Report (2007)）。
（3）本物質の加水分解物であるサリチル酸の発がん性ポテンシャル検討のためのスクリーニング試験として、ラットにサリチル酸ナトリウムを混餌または注射により投与した結果、いずれの臓器にも腫瘍発生を示した動物はみられなかった（REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)）。
（4）ラット2年間慢性毒性試験及びA系マウスを用いた試験では、本物質の発がん性はみられなかった。遺伝毒性試験結果、サリチル酸及びその関連物質のよく知られている代謝機構を考慮すると、本物質が発がん性を有するとは考えにくい（RIFM Expert Panel Report (2007)）。

生殖毒性

【分類根拠】
（1）～（2）より、区分1Bとした。なお、（1）では軽度な母体毒性がみられる用量で、児動物に奇形や内臓異常がみられ、（2）では出生率減少等の影響がみられている。
【根拠データ】
（1）ラットを用いた皮下投与による発生毒性試験（GLP、妊娠6～17日）において、200 mg/kg/dayで親動物に体重増加抑制、摂餌量減少、児動物に体重の低値、外表奇形（頭蓋脊椎破裂・腹壁破裂）及び内臓異常（心室中隔欠損・尿管拡張・頸部における胸腺の残滓）の発生頻度がみられたとの報告がある（CLH Report (2018)）。
（2）ラットを用いた皮下投与による発生毒性試験（GLP、妊娠6～哺育21日）において、200 mg/kg/dayで親動物に一般毒性影響（死亡（1/20例）、体重減少、摂餌量減少）、児動物に出生率減少、包皮分離遅延、切歯萌出の遅延、骨格変異及び異常（頸椎骨の癒合・胸椎分節欠損）の増加がみられたとの報告がある。（CLH Report (2018)）。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

【分類根拠】
（1）～（4）より、中枢神経系及び消化管が主標的臓器と考えられ、区分1（中枢神経系、消化管）に分類できる。また嗜眠、昏睡がみられていることから区分3（麻酔作用）を追加し、区分1（中枢神経系、消化管）、区分3（麻酔作用）とした。
【根拠データ】
（1）本物質の大量使用による副作用として、頭痛、悪心・嘔吐、食欲不振、頻脈等が生じるとの報告がある（JAPIC (2019)）。
（2）本物質は経口経路ではよく吸収される。本物質は迅速かつ大半が加水分解され、サリチル酸とメタノールになる。本物質はヒトの場合、経口投与後に80%が90分以内に加水分解されるとの報告がある（CLH Report (2018)）。
（3）サリチル酸の急性中毒は、アセチルサリチル酸（アスピリン）の過剰量、局所薬の過剰適用、サリチル酸軟膏の摂取等多くの症例報告がある。2004年だけでもサリチル酸のヒトばく露が米国のpoison control centerに40,405件報告されている。これらのうち、本物質の関与が12,500件（30%）含まれる。サリチル酸中毒の典型的な症状は吐血、頻脈、呼吸、呼吸困難、耳鳴り、難聴、嗜眠、発作、錯乱等であるとの報告がある（CLH Report (2018)）。
（4）経口摂取後のサリチル酸中毒の主症状は悪心・嘔吐、上腹部痛であり、時には吐血がみられる。また、軽度～中程度のサリチル酸中毒の共通的な臨床症状には過呼吸、発汗、紅潮、発熱、被刺激性亢進、耳鳴り、難聴が含まれる。重篤な中毒症例では、呼吸困難、卒倒、幻覚、痙攣、乳頭浮腫及び昏睡が特に小児に発生するおそれがある。代謝性アシドーシス、非心原性肺水腫、肝毒性及び心リズム障害をきたすおそれもあるとの報告がある（IPCS PIM 642 (Accessed Oct. 2020)）。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

【分類根拠】
（1）、（2）より、区分1（中枢神経系）とした。なお（3）、（4）より、実験動物では区分2までの用量範囲内で標的臓器毒性はみられなかった。
【根拠データ】
（1）本物質は経口経路ではよく吸収される。本物質は迅速かつ大半が加水分解され、サリチル酸とメタノールになる。本物質はヒトの場合、経口投与後に80%が90分以内に加水分解されるとの報告がある（CLH Report (2018)）。
（2）慢性サリチル酸中毒の徴候として、代謝性アシドーシス、低血糖、嗜眠、昏睡及び痙攣などである。との報告がある（IPCS PIM 642 (Accessed Oct. 2020)）。
（3）ラットを用いた混餌投与による2年間経口投与試験において、50 mg/kg/day（区分2の範囲）で影響がみられず、250 mg/kg/day（区分該当しない範囲）で毒性所見がみられるが、標的臓器は明確ではないとの報告がある（RIFM Expert Panel Report (2007)、REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)）。
（4）イヌを用いた強制経口による2年間経口投与試験において、50 mg/kg/day（区分2の範囲）で影響がみられず、150 mg/kg/day（区分該当しない範囲）で肝臓影響（相対重量増加、肥大、肝細胞肥大）がみられたとの報告がある（RIFM Expert Panel Report (2007)、REACH登録情報 (Accessed Oct. 2020)）。

誤えん有害性

【分類根拠】
データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

短期：（急性）　藻類（デスモデスムス属）72時間ErC50 = 1.6 mg/L（EU CLP CLH, 2018）であることから、区分2とした。

長期: (慢性)	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性に関する十分なデータが得られていない。藻類(デスモデスムス属)の72時間NOErC = 0.79 mg/L(EU CLP CLH, 2018)から、区分2となる。 慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性に関する十分なデータが得られていない。魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50 = 19.8 mg/L(EU CLP CLH, 2018)から、区分3となる。 以上の結果を比較し、区分2とした。
残留性・分解性	該当情報なし。
生態蓄積性	該当情報なし。
土壌中の移動性	該当情報なし。
オゾン層に対する有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

14. 輸送上の注意

国連番号	3082
品名(国連輸送名)	環境有害物質(液体)
国連分類	クラス9
容器等級	Ⅲ
海洋汚染物質	該当しない。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	171

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)	第一種指定化学物質〔サリチル酸メチル〕
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物に該当しない 皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質〔メチル＝２－ヒドロキシベンゾアート(別名サリチル酸メチル)〕
消防法	危険物第4類第3石油類非水溶性液体

16. その他の情報

参考文献	NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 17423の化学商品(化学工業日報社) GHSの挑戦(化学工業日報社)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報　データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。